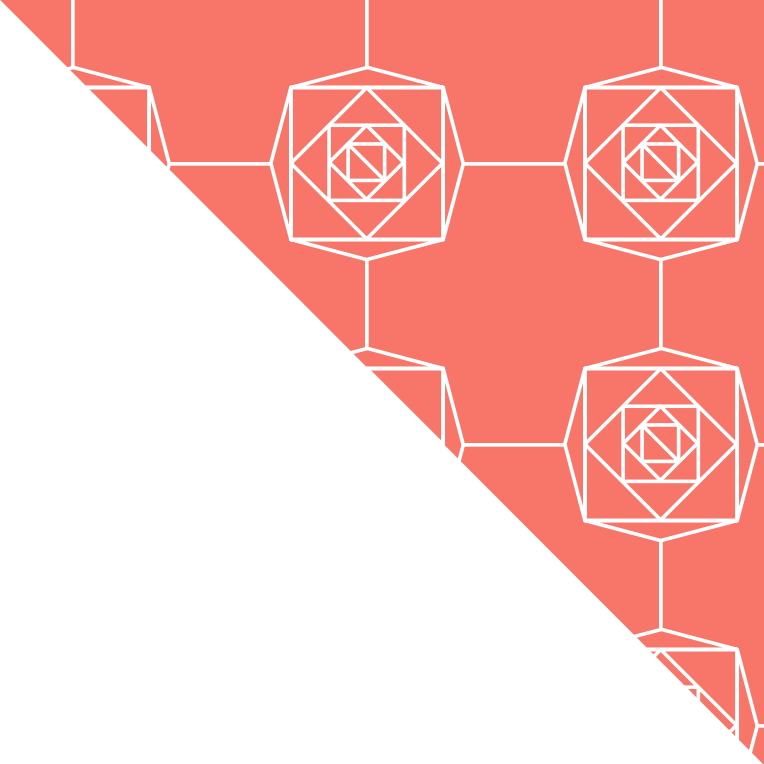




第 2 章 伊奈町のいま

1. まちのあゆみ

2. まちのすがた

3. 踏まえるべき社会潮流と変化

4. まちの課題

1. まちのあゆみ

本町では、旧石器時代から人々が生活していました。近世になると、伊奈備前守忠次*が丸山の地に陣屋を構えて拠点とし、武蔵国を中心として、関東から東海にわたる地域の開発と整備に多大な功績を残しています。当地も伊奈氏による勤業治水が行われ、江戸時代を通じて水田地帯として栄えました。



明治8年に8か村が合併して小室村が、明治22年に4か村が合併して小針村がそれぞれ誕生し、さらに昭和18年に小室村と小針村とが合併、前述の伊奈氏の名にあやかり村名を「伊奈村」としました。

昭和35年頃からの高度経済成長により住宅の建設や工場の進出が進み、昭和45年に人口が1万人を超え、同年11月1日に町制を施行し「伊奈町」となりました。

昭和58年の東北・上越新幹線の開業にあわせ、その高架を利用した埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が開通し、町内に丸山駅、志久駅、伊奈中央駅、羽貫駅、内宿駅の5駅が誕生しました。内宿駅や羽貫駅、伊奈中央駅周辺で土地区画整理事業が行われ、町は変貌を続けています。



北部地区の土地区画整理事業が完了し、羽貫駅周辺には大型商業店舗が出店するなど、大きなにぎわいをみせています。内宿駅や羽貫駅、伊奈中央駅周辺は、良好な住宅地として多くの住宅が建ち並んでいるほか、内宿駅、羽貫駅周辺では県民活動総合センター、県立伊奈学園総合高等学校・伊奈学園中学校など県の施設も多く立地しています。



丸山駅から志久駅周辺では、平成25年にリニューアルされた県立がんセンターのほか、平成16年に日本薬科大学が開設され、国際学院中学校高等学校や栄北高等学校、埼玉自動車大学校とあわせ、教育施設の集まった地域となっています。

また、令和5年には救急指定病院である伊奈病院が増床し移転開業したほか、令和6年には先端企業である大手企業が本社工場を移転するなど、活況を呈しています。

さらに、近年では効率的な行財政運営を行うため、近隣市との連携を推進しており、令和5年に消防力強化に向けた上尾市との消防広域化を開始したほか、持続可能な循環型社会を目指したごみ広域処理施設の建設などが計画されています。

今後は、伊奈町役場新庁舎の建設が予定されており、にぎわいのあるまちづくりを更に推進します。

2. まちのすがた

1 人口動態の状況

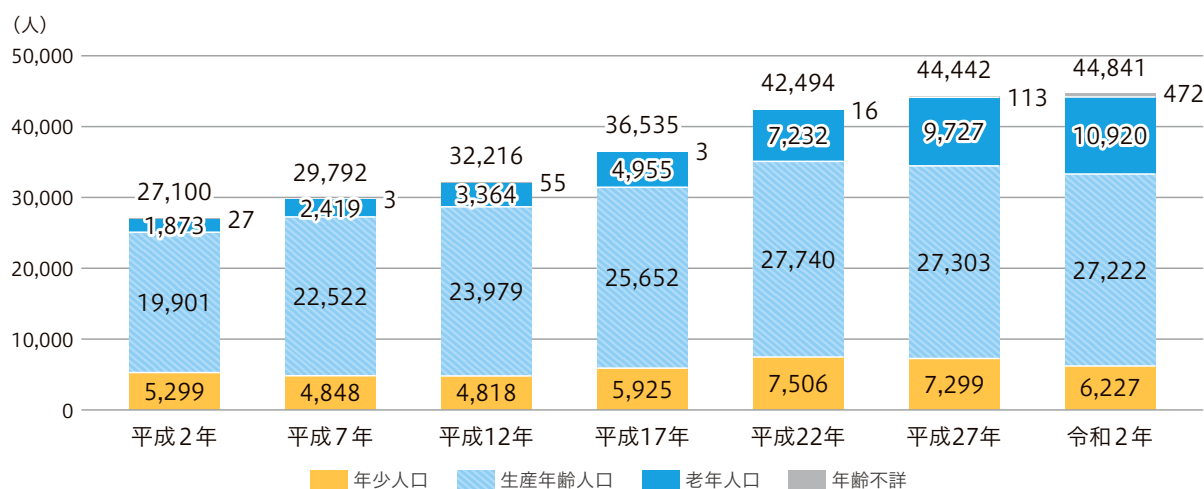
① 人口の推移

本町の人口推移については、平成2年以降、一貫して増加傾向となっています。

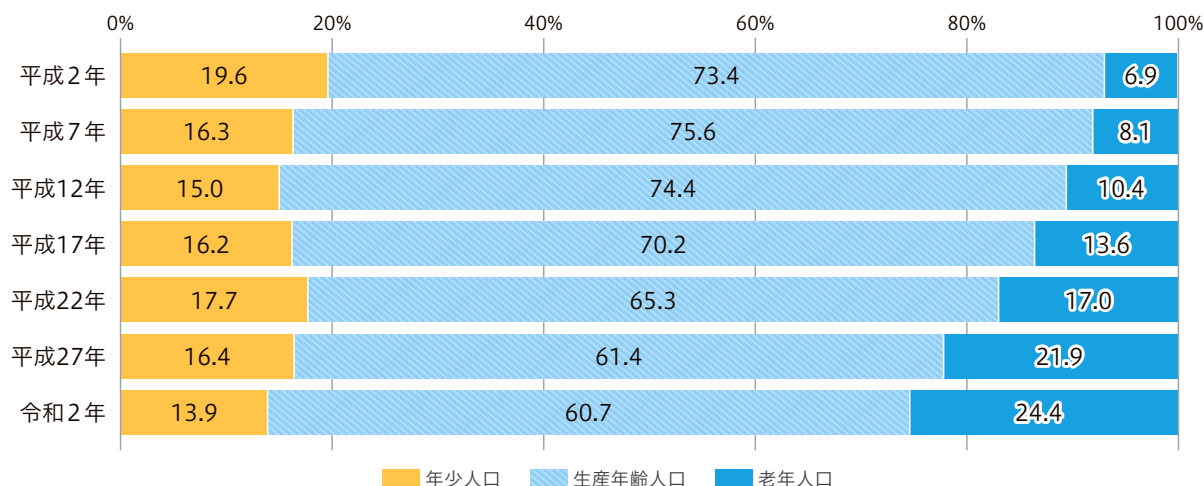
年齢3区分別にみると、年少人口と生産年齢人口は平成22年をピークに減少傾向で推移しています。老年人口については、一貫して増加傾向となっています。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、年少人口は平成2年から平成12年にかけて減少傾向にありましたが、平成17年から平成22年にかけて増加し、平成27年以降は再び減少し、令和2年では13.9%となっています。生産年齢人口についても減少傾向で推移しており、令和2年では60.7%となっています。老年人口は一貫して増加で推移しており、令和2年では24.4%となっています。

年齢3区分別人口の推移



年齢3区分別人口割合の推移



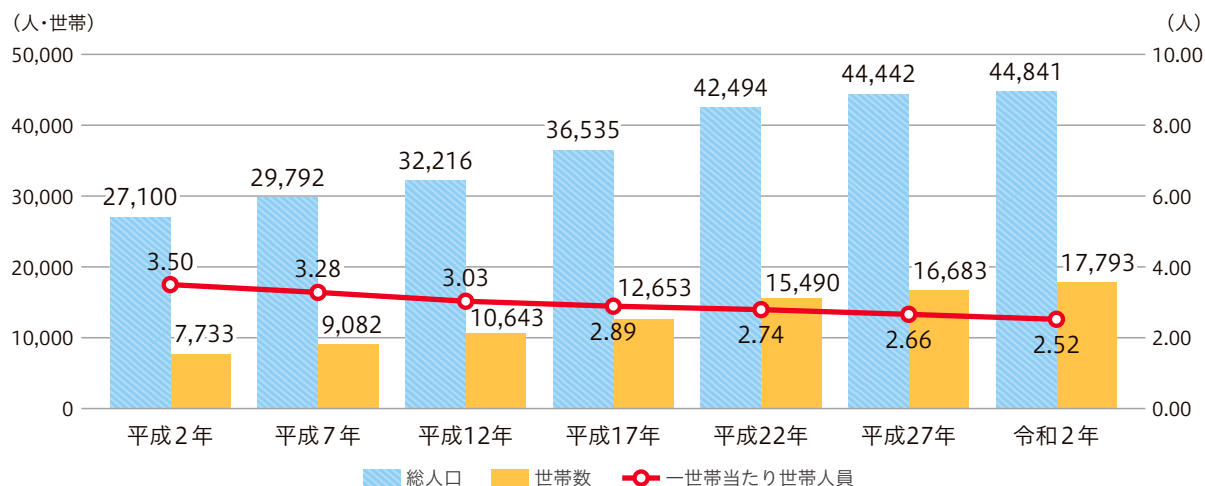
資料：国勢調査

② 世帯数、一世帯当たり世帯人員の推移

本町の世帯数についてみると、平成2年以降増加傾向で推移しており、令和2年では17,793世帯となっています。

一世帯当たりの世帯人員についてみると、平成2年以降は減少傾向で推移しており、令和2年では2.52人となっています。

世帯数、一世帯当たり世帯人員の推移

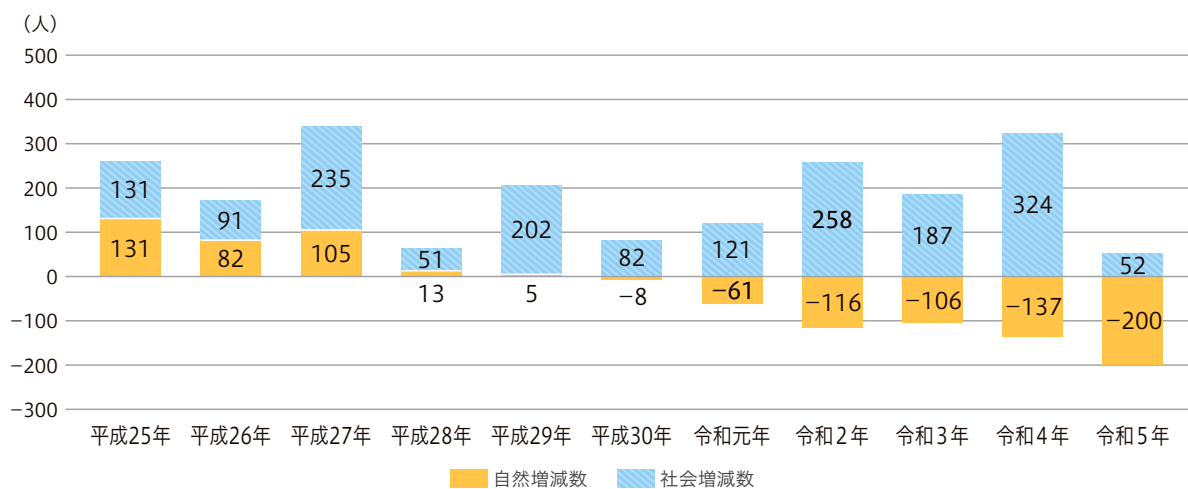


資料：国勢調査

③ 自然増減・社会増減の推移

自然増減と社会増減の推移をみると、自然増減数は平成29年までは自然増で推移していましたが、平成30年以降は死亡数が出生数を上回っており、令和5年では200人の自然減となっています。社会増減数は、年によって増減数に差があるものの、一貫して転入が転出を上回っており、令和5年では52人の社会増となっています。

自然増減・社会増減数の推移



※職権消除や職権修正による異動は除く

資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

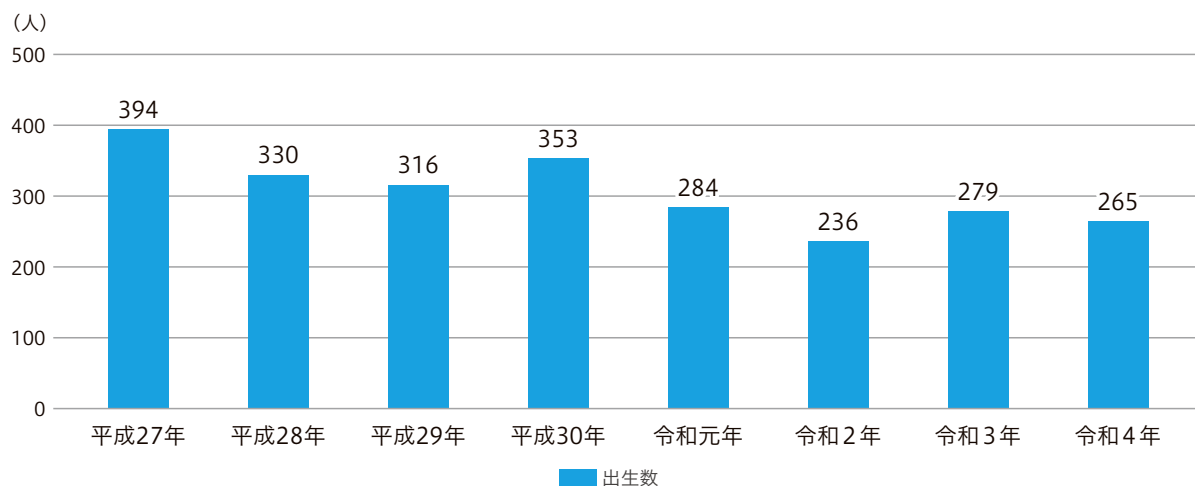
④ 出生数と合計特殊出生率の推移

出生数の推移をみると、平成30年までは300人台で推移していたものの、令和元年以降は300人を下回って推移しており、令和4年では265人となっています。

合計特殊出生率の推移をみると、年によって差があり、平成27年と平成30年では1.50を上回っていますが、令和4年では1.22となっています。

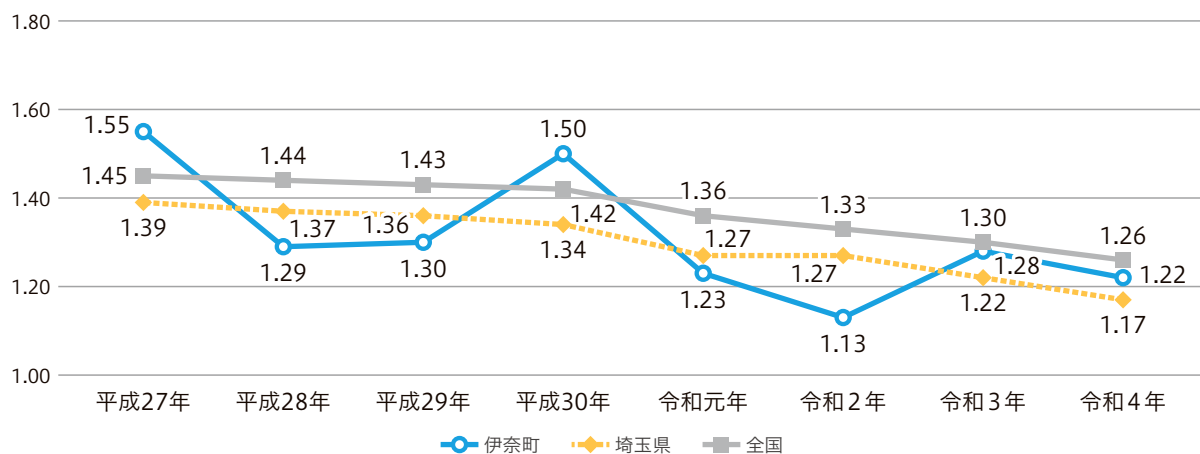
国と比較すると、近年は国の平均を下回って推移しています。

出生数の推移



資料：彩の国統計情報館 合計特殊出生率の年次推移（保健所・市区町村別）

合計特殊出生率の推移



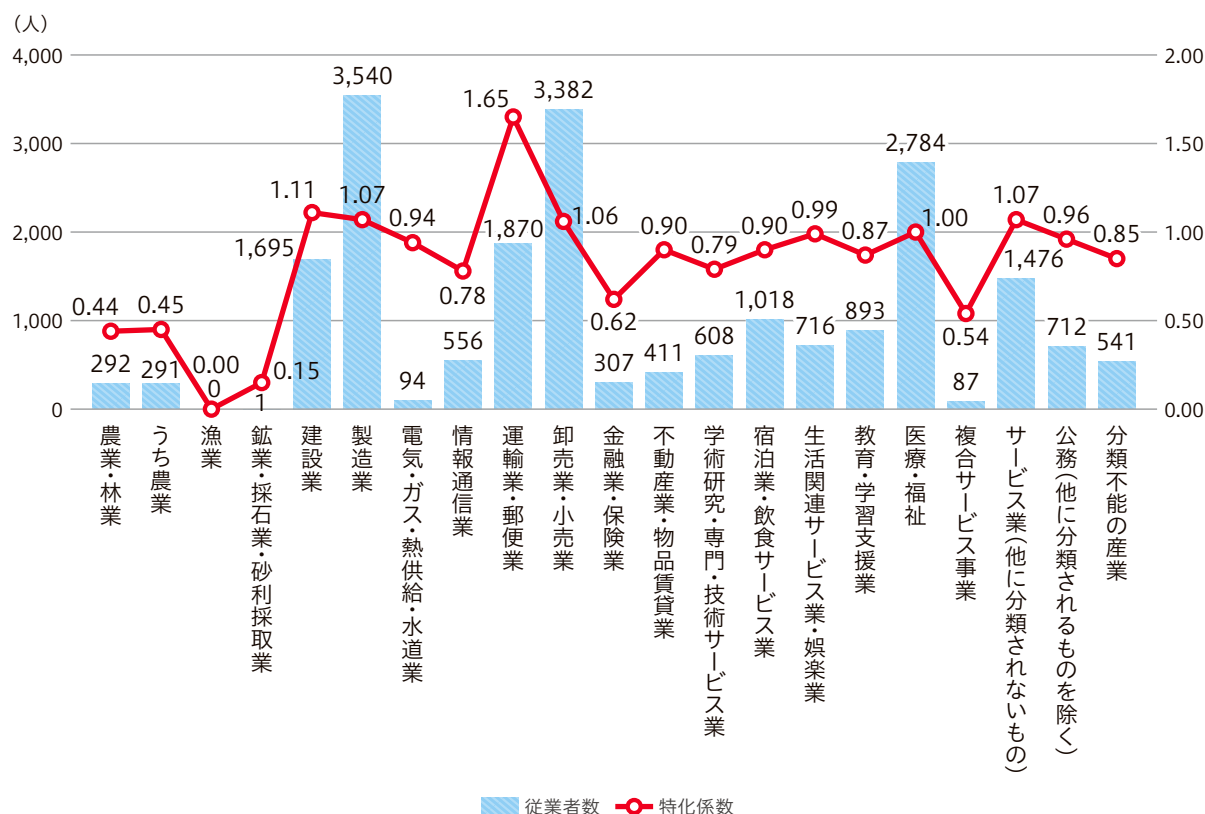
資料：彩の国統計情報館 合計特殊出生率の年次推移（保健所・市区町村別）

2 産業の状況

① 産業別従業者数及び特化係数の状況

本町の従業者数を産業別にみると、「製造業」が最も多く、次いで「卸売業・小売業」「医療・福祉」となっています。全国と比較してその産業に特化しているかをみる特化係数の状況については、「運輸業・郵便業」が1.65と最も高く、「建設業」「製造業」「卸売業・小売業」「医療・福祉」「サービス業(他に分類されないもの)」で1.0以上となっています。

産業別従業者数と特化係数の状況(令和2年)

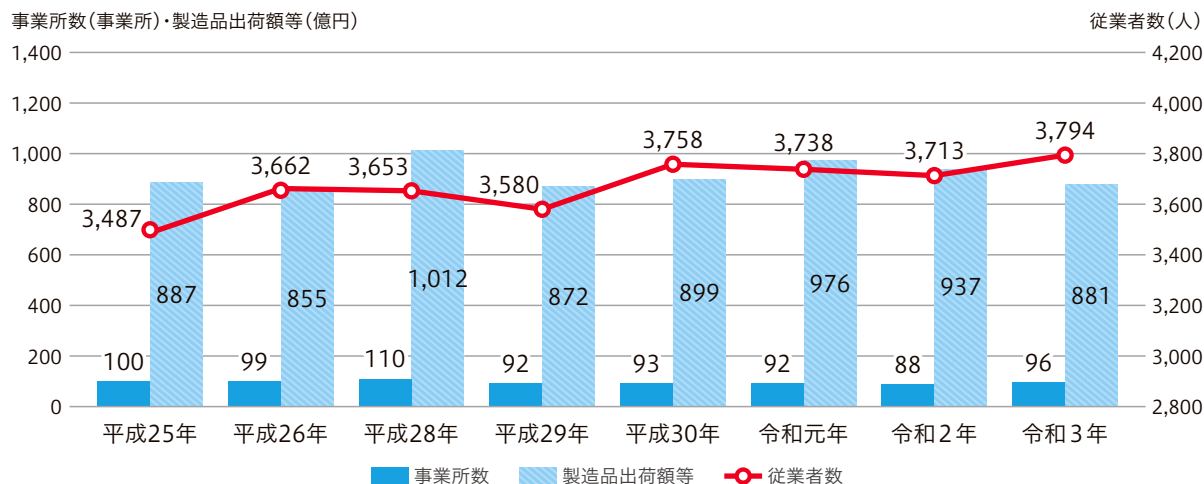


資料：国勢調査

② 工業

製造業の事業所数及び従業者数の推移をみると、事業所数は毎年増減しており、令和3年では96事業所となっています。従業者数は概ね増加傾向にあり、令和3年では3,794人となっています。製造品出荷額等をみると、年によって差はあるものの、900億円前後で推移しています。

事業所数、製造品出荷額等、従業者数の推移

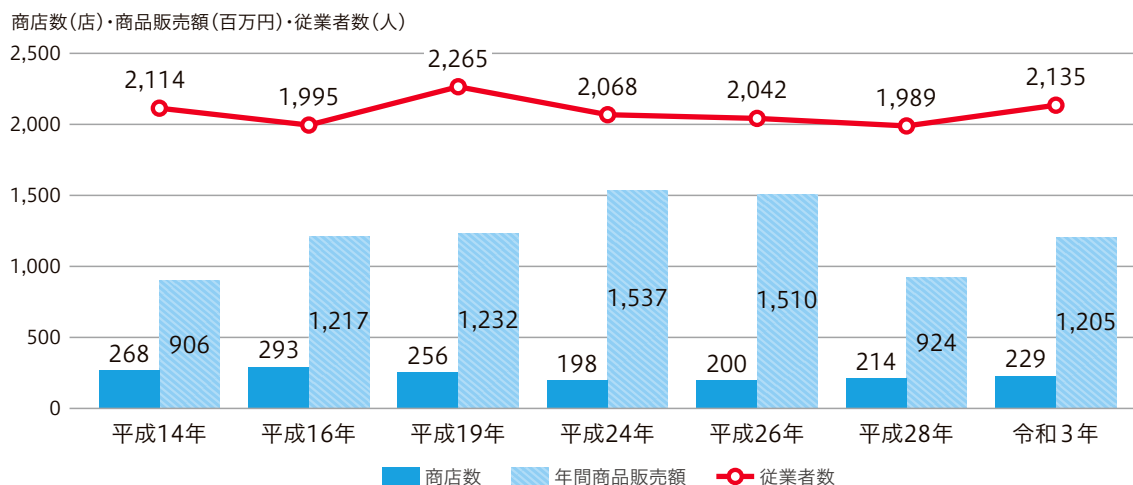


資料：工業統計・経済センサス - 活動調査
(令和2年まで：工業統計、令和3年：経済センサス - 活動調査)

③ 商業

商業の状況をみると、商店数については平成26年以降増加傾向にあり、令和3年では229店となっています。従業者数をみると、毎年増減しており、令和3年では2,135人となっています。年間商品販売額をみると、平成28年では924百万円と大きく減少していますが、令和3年では1,205百万円となっています。

商店数、商品販売額、従業者数の推移

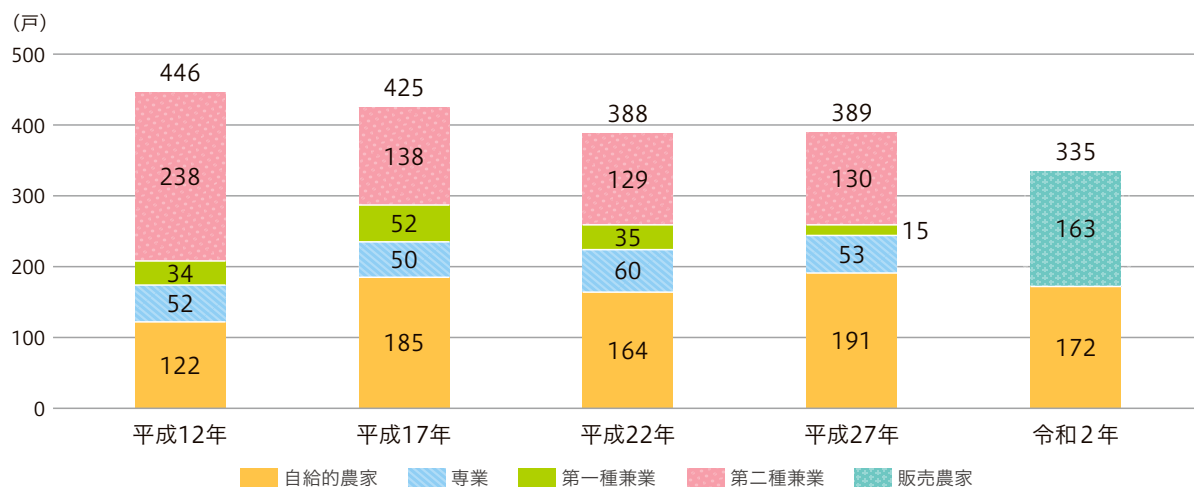


資料：商業統計・経済センサス - 活動調査
(平成14年～19年及び平成26年：商業統計、平成24年及び平成28年以降：経済センサス - 活動調査)

④ 農業

農業の状況をみると、平成12年以降、農家数は減少傾向にあり、令和2年では335戸となっています。

農家数の動向

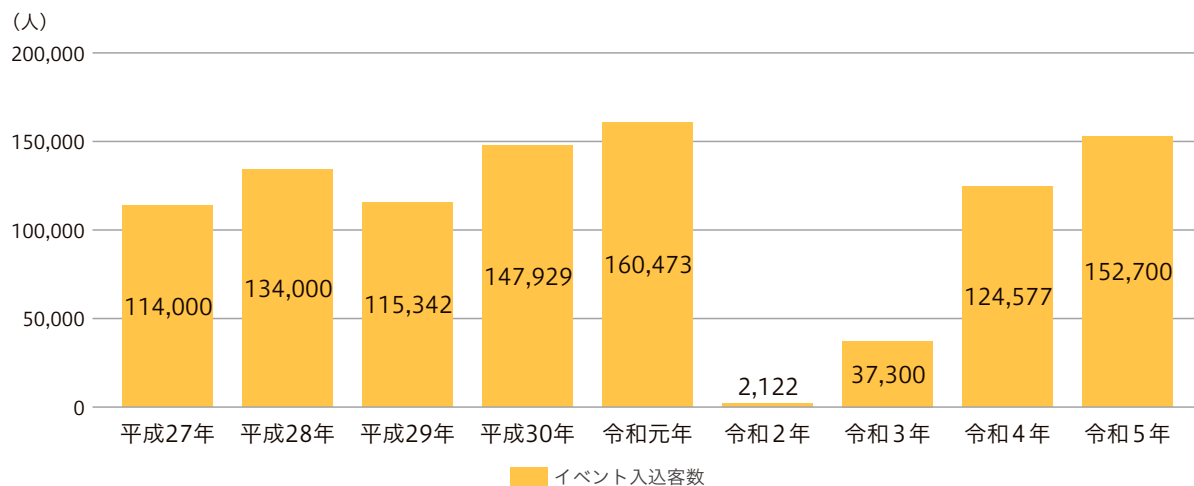


資料：農林業センサス
(令和2年より、専業農家と兼業農家については、販売農家に統合された)

⑤ 観光業

観光業についてみると、令和2年から令和3年にかけて新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントの入込客数は大幅に減少していましたが、令和4年以降は新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあり、令和5年では152,700人となっています。

町内におけるイベントの入込客数の推移



資料：埼玉県観光入込客統計調査

3 町民からみた伊奈町の状況

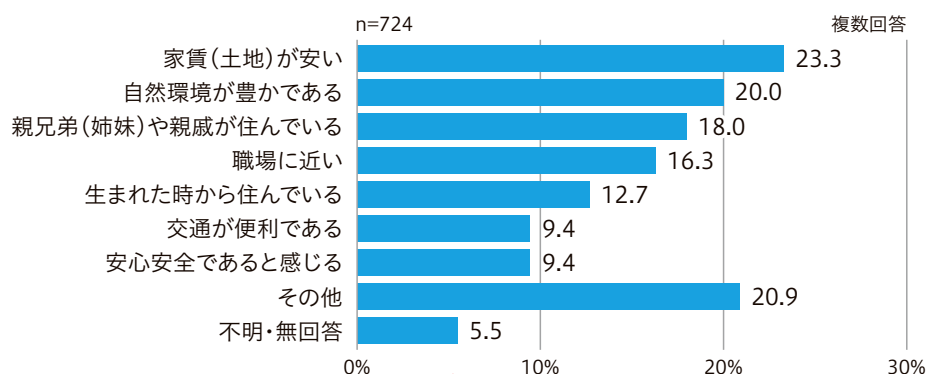
① 町民アンケート

町民の皆様より、生活環境や町の様々な取組に対する評価と、今後のまちづくりに対する意向を把握するとともに、就労についての動向及び意向、デジタル化の推進についての意向、新型コロナウイルス感染症の影響についての動向及び意向、SDGsについての意向を把握するため実施しました。

対象	町内にお住まいの16歳以上の方から無作為抽出した1,500名
方法	郵送配付・郵送回収またはWEBアンケート
期間	令和4年11月17日(木)～12月7日(水)回収分まで
回収結果	配付数：1,500件、有効回収数：724件、有効回収率：48.3%

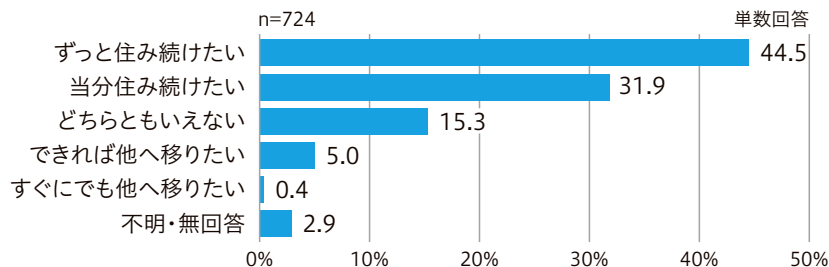
〔定住意向〕

なぜ、伊奈町に住もうと思いましたか。(上位7項目)



- 住もうと思ったきっかけについては、「家賃(土地)が安い」や「自然環境が豊かである」という点を理由に挙げている方が多くなっています。

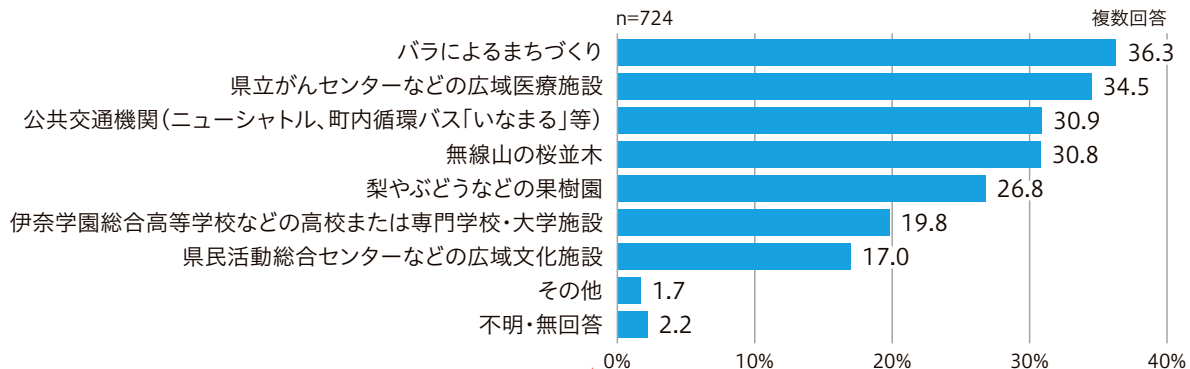
今後も伊奈町に住み続けたいですか。



- 76.4%の方が、今後も伊奈町に『住み続けたい』(「ずっと住み続けたい」+「当分住み続けたい」の合計)と感じています。

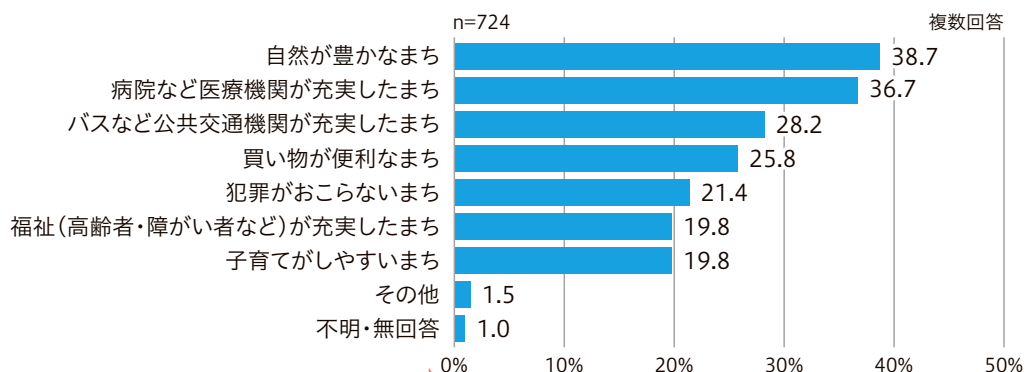
〔伊奈町の将来像やまちづくり〕

将来に向けて生かしていくべき伊奈町の個性は何ですか。(上位7項目)



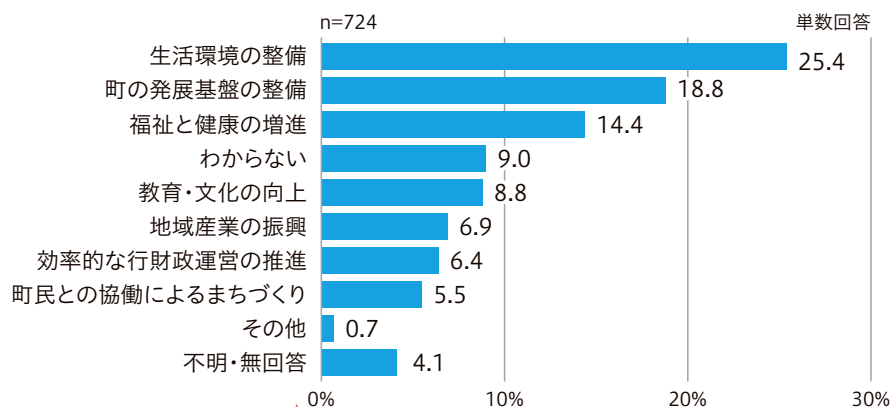
- 将来に向けて生かしていくべき伊奈町の個性については、「バラによるまちづくり」が最も高く、医療施設や公共交通機関を活用することなどが多く挙げられています。

伊奈町には、どのようなまちになってほしいですか。(上位7項目)



- どのようなまちになってほしいかについては、「自然が豊かなまち」が最も高く、医療機関や公共交通機関の充実、買い物のしやすいまちなどが多く挙げられています。

特に重点的に進めるべき部門



- 町が重点的に進めるべきだと思う部門については、「生活環境の整備」が最も多く、「町の発展基盤の整備」、「福祉と健康の増進」が上位に挙げられています。

② 関係団体ヒアリング

町内で活動する関係団体を対象に、団体活動の現状・課題を把握するとともに、地域特性の分析に活用するためのご意見をお伺いしました。

実施日	令和5年8月23日(水)・8月28日(月)
場所	伊奈町役場

【主なご意見】

産業関連	さいたま農業協同組合、JAさいたま伊奈直売組合、伊奈町商工会、一般社団法人伊奈町観光協会、忠次プロジェクト推進協議会
------	--

- いろいろな働き方が増えており、企業側が求める条件と働き手の条件がマッチしなくなってきている。事業の承継も課題となっている。
- 町と観光協会がお互いに連携して、シティプロモーション*を進めていくことが求められる。
- 町を知ってもらうだけではなく、来てくれた人がお金を落としてくれる、滞在型の観光を目指していきたい。

スポーツ・文化・レクリエーション関連	伊奈町文化協会、伊奈町スポーツ協会、伊奈町スポーツ少年団、伊奈町レクリエーション協会、伊奈町日本語教室 日本語いいな
--------------------	--

- 会員の高齢化が進んでおり、若い人も入ってこないため、後継者不足が深刻である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができない団体があり、退会者の増加や団体の解散もみられた。
- 既存の団体同士の連携強化を図るとともに、観光協会等と連携してキッチンカーを呼ぶなど、イベントの内容を濃くしていきたい。

地域活動関連	伊奈町区長会、伊奈町自主防災組織連絡協議会、伊奈町自主防犯組織、伊奈町子ども育成会連絡協議会、伊奈町自然に親しむ会
--------	---

- 区のあり方が難しく、町内会や子ども会を辞める人が多くなっている。担い手の育成が課題。
- 伊奈町は災害が少ない町であるからこそ、日頃の防災への意識が低くなっていると思う。地域の団体が合同で災害に対応できるよう、地域に合わせた訓練をしないとけない。
- ボランティアは大変なので、町もボランティア任せにならないようにしてほしい。
- 人を集めるには工夫が必要である。公式LINEなどを活用して「何時に〇〇をやりますよ」といった情報を流せばもう少し集まるのではないかな。
- 人口は増えたが、転入者がほとんど。その人たちにも地域に参加してもらうようにすることも必要。

健康・福祉関連	伊奈町社会福祉協議会、伊奈町民生委員・児童委員協議会、伊奈町食生活改善推進員協議会、伊奈町赤十字奉仕団、伊奈町母子愛育会
---------	--

- コロナ禍以降、貧困に関する相談が多くなっている。
- 外国籍の方をお祭りに誘うなど、地域に参画してもらいたいが、個人情報の問題もあり現状は難しい。コミュニティを形成できれば多文化共生*が進むのではないかな。
- 料理は大切だと思うが、いまは共働き世帯も多く、特に若い方は難しい。子どものうちから料理をすることや美味しいごはんを食べることの大切さを学べると良いのではないかな。
- やはり今後は地域共生社会が重要。いずれは地域の人たちが主体的に関わってもらい、維持できるようになると良い。

③ 高校生ワークショップ

町内に通う高校生を対象に「伊奈町は若者にとって選ばれるまち?」「選ばれるまちになるためにはどんなことをすれば良いのか?」などを話し合っただき、町に対するニーズやご意見・アイデアをお伺いしました。

国際学院高等学校

実施日	令和5年3月10日(金)
場所	伊奈町役場
参加者	国際学院高等学校の高校生(計11名)



Q 若者に選ばれる伊奈町になるためには何が必要?

行政や住みやすさに関すること

- ☐ 図書館の自習室
- ☐ 予約なしの体育館
- ☐ 町役場前の広場にブランコと砂場が欲しい
- ☐ 若い人たちとお年寄りの人たちとのコミュニケーションを増やす
- ☐ 体育館や公園を作る

交通に関すること

- ☐ バス(いなまる)の本数を増やす
- ☐ 道路の整備

商業施設等に関すること

- ☐ 映画館/ショッピングモールができる
- ☐ 駅、大きい道路にコンビニを増やす
- ☐ 大型の商業施設を作る

自然や文化、観光に関すること

- ☐ ゆるキャラサミットでPRする
- ☐ 町の有名な食べ物をPRしたり、開発する
- ☐ SNS*, インスタを使って宣伝する
- ☐ バラを使ったインスタ映えスポットを増やす
- ☐ 自然を使って子ども向けのイベントを作る

栄北高等学校

実施日	令和5年3月13日(月)
場所	栄北高等学校
参加者	栄北高等学校の高校生(計79名)



Q 町内外問わず伊奈町のファンを増やすには何をしたらいい?(シティプロモーション・関係人口)

- ☐ バラに関する商品を作る(せっけん、ハンドクリーム、ケーキ)
- ☐ 伊奈町の特産物を使ったカフェなどを作る
- ☐ 遊園地や映画館、カラオケなどの娯楽施設を作る
- ☐ 通勤、通学ラッシュの時間帯に電車の本数を増やし、料金を安くする

- ☐ 高架下をきれいにする(スポーツができる場所を作る)
- ☐ 緑の町を目指す
- ☐ 偏差値がある程度ある小中高一貫校をつくる
- ☐ ニューシャトルのイベントを増やす
- ☐ ご当地グルメを作る

Q 町外に住んでいる若者が「住んでみたい」と思う伊奈町になるためには何が必要？(移住・定住)

- ☐ 交通網の整備の強化(街灯などの設置)
- ☐ 駅周辺の発展
- ☐ サッカー場などのスポーツ施設を設置する
- ☐ ○○フェアなどの食べ物や季節に応じたイベント
- ☐ アスレチックなどの遊具の設置
- ☐ 図書館以外でも勉強できる場所・土日のバスなどの本数を増やす
- ☐ 自然を増やす(バラ)
- ☐ バラの城(インスタ映え)(イルミネーション)
- ☐ 道の整備(サイクリングロード)

Q 伊奈町環境を生かしてどんな子育て環境をプロデュースしたらいい？(子育て・教育)

- ☐ 図書館を大きくする
- ☐ 公共の勉強ができる施設を作る
- ☐ ボール遊びができる公園を増やす
- ☐ 小・中学校での英語教育強化
- ☐ 小学校から大学までの学費0円
- ☐ 留学の機会を作る
- ☐ 小型店も活発化
- ☐ ニューシャトルなどの民間企業との締結
- ☐ 家をたくさん建てる
- ☐ 街灯を増やす
- ☐ バスでSuicaを使えるようにする
- ☐ 道路整備をする
- ☐ 飲食店のキッズスペースを増やす
- ☐ 防音のためにシャトルの周りを工夫する
- ☐ 歩道橋を増やす
- ☐ 公園の遊具を増やす
- ☐ 親子で楽しめるイベントを増やす
- ☐ スロープを増やす

Q 伊奈町が高齢者や障がい者にとっても暮らしやすい町になるためには何が必要？(福祉)

- ☐ 道を広くする
- ☐ 街灯を増やす
- ☐ 無料送迎バスを作る
- ☐ 大きな病院を設立する
- ☐ バリアフリーを増やす
- ☐ 老人ホームを増やす
- ☐ 高齢者も楽しめる遊具を作る
- ☐ 高齢者と子どものふれあいの場を増やす
- ☐ 障がい者の人も参加できるイベントを作る
- ☐ あいさつ運動
- ☐ 高齢者から学べる場を作る
- ☐ 最新技術を教える場を増やす
- ☐ 毎朝のラジオ体操の開催
- ☐ 高齢者のハンドメイド販売
- ☐ 支援物資の無料配布
- ☐ 施設の拡張(障がい者施設、老人ホームなど)
- ☐ 温泉を作る
- ☐ 飲食店を増やす
- ☐ 障がい者スポーツチームを作る
- ☐ バラの香りのシャンプー等
- ☐ ふるさと納税、バラの商品、利益は福祉関係へ

Q 伊奈町の魅力を守っていくために必要なことは？(自然・歴史)

- ☐ バラをモチーフにしたものや店を作る
- ☐ 伊奈町の歴史をマンガやアニメの聖地にする
- ☐ 農作物をつくる体験をできるようにする
- ☐ 大きい博物館を作る
- ☐ SNSで伊奈町をバズらせる
- ☐ 5Gの場所を増やす
- ☐ ニューシャトルを安くして、色んな人が来やすくする
- ☐ 伊奈ローズのグッズを作る
- ☐ ボランティア活動(ごみ拾い)
- ☐ 0円食堂(店舗)
- ☐ 伊奈町ラジオ(自然・歴史情報など)
- ☐ ツアー(果物、自然、歴史跡地)
- ☐ バラ園のグッズを売る
- ☐ スタンプカード(バラ園)
- ☐ バラ園近くに歴史館を作る
- ☐ 環境保護中心の会社を作る
- ☐ 時代劇を作ってもら(伊奈備前守忠次)

④ 中学生ワークショップ

町内の中学生を対象に「伊奈町が将来どんなまちになってほしいか」「そのためにはどんなことをすれば良いのか?」を考えていただき、若者目線でのニーズやご意見・アイデアをお伺いしました。

伊奈中学校

実施日	令和5年11月15日(水)
場所	伊奈中学校
参加者	3年3組の生徒



Q 10年後に伊奈町がどんなまちになっていると良いか

テーマ	そのためにできること
世界一もっとも災害に強いまち	☐ 避難所を増やす ☐ 災害の知識を増やす(災害関連の授業) ☐ 災害体験施設を作る
町を超えて市、住んでいる人が楽しめる場がある町	☐ ショッピングモールを作る ☐ 銭湯が欲しい ☐ 自然の中にアスレチック
発展した“住む町”	☐ 教育施設の拡充 ☐ 多くの地域から見習う ☐ 過疎化対策
活気がある町	☐ SNSで広める ☐ 「どうせむり」を使わない ☐ ごみ拾いをする

南中学校

実施日	令和5年11月24日(金)
場所	南中学校
参加者	3年2組の生徒



Q 10年後に伊奈町がどんなまちになっていると良いか

テーマ	そのためにできること
健康にらせるまち	☐ 栄養バランスの取れたおいしい給食 ☐ 公共交通機関を増やし、車の交通量を減らすことによってCO ₂ の排出量を減らす
事故が少ない安全なまち	☐ 地域の人と触れあう機会を増やす ☐ ユニバーサルデザインを意識する ☐ 信号と横断歩道を増やす ☐ 歩道を広げる
発展途上町から先進町へ	☐ 大規模な娯楽施設を作る ☐ 子育て支援の充実 ☐ 人口を増やす(歳入増) ☐ 地域のイベントを増やす
施設が充実していて住みやすいCity	☐ 観光地(小さい子が室内で遊べる場所) ☐ 利用しやすいバス運行(行き先に一本で行ける) ☐ 体育館

小針中学校

実施日	令和5年11月24日(金)
場所	小針中学校
参加者	2年生全クラスの生徒



Q 10年後に伊奈町がどんなまちになっていると良いか

テーマ	そのためにできること
伊奈町の自然や文化を生かし、発展する町！	☐ バラを生かした特産品を作る！！ ☐ 施設などを作るためでも、あまり森林の伐採しない！ ☐ キャラクターの可愛さを全面に出す
関東に知られたい！遊びに行くなら『伊奈』となるように！	☐ CM・映画などの撮影に協力し知名度UP！ ☐ 町の象徴となる施設を作る ☐ 他の地域に交通網を広げる ☐ 地域ブランドを立ち上げる
安心できる町	☐ ハチのいるところをリサーチ→役場の人に駆除してもらう ☐ 地図を作る→わからない人もわかるように ☐ 自転車ゾーンを作る→交通事故を少なくするため
人々が住みやすい町～伊奈町っていいな～	☐ 自然を守るため、ポイ捨てを無くす ☐ インターネットを活用する ☐ 積極的にボランティア活動を行う
自然と共存した認知度の高いまち	☐ 伊奈町の梨などの特産品を使った料理・スイーツを作る ☐ 学校で自分の町を知る機会を作る ☐ 植林活動に参加
にぎやかなまち！	☐ 行事に参加する(ボランティア) ☐ 自然を大切にする→リサイクル
治安をより良くする	☐ 子どもを正しい道へ教育する ☐ 不審者を減らす ☐ 注意書きを掲示する
埼玉といえば“伊奈町”と思われる町！	☐ バラ園を宣伝し、来てもらう！ ☐ SNSで伊奈町を全国に広めて欲しい ☐ TikTokなど流行りを取り入れる ☐ 伊奈町にしかないような印象的な店や建物を作る
自然と共に生きる町	☐ 清掃のボランティア活動に参加する ☐ リユース・リサイクルに協力する！ ☐ 気軽に参加しやすい清掃イベントを行う
梨日本一な町！	☐ 梨をたくさん消費する ☐ 梨の加工品を作る ☐ 梨に興味を持つ

5 町民ワークショップ

日頃生活しているなかで感じる、伊奈町の良いところ（強み）、課題と感じるところ（弱み）について考えていただき、それらを踏まえて未来の伊奈町がより良いまちになるためのアイデアを参加者同士で話し合いました。

北地区

実施日	令和5年7月15日（土）
場所	伊奈町パブリックルーム（ユニクス伊奈）
対象	柴中荻区、若槻区、大針区、学園中央区、 細田山区、羽貫区、小針新宿区、小針内宿区、 光ヶ丘区にお住まいの方
参加者	13名



グループ	伊奈町の強み・弱み	キーワードとアイデア
A グループ	○ ニューシャトルができて交通がよかった ○ 区域によって年齢層が異なる ○ 緑がある ○ 北足立郡をいやがる人もいる（市制への目標？） ○ 税収の拡大（お金が無いと何も出来ない） ○ 企業誘致策、転入者増加策が見えない ○ コンパクトな町 ○ 自然との調和	■ 福祉子育ての町 ○ 社会福祉課、いきいき長寿課、子育て支援課の職員の人員増強 ○ 外部の人々を呼び込み、人口増に繋げる
B グループ	○ 道が狭い ○ 自然が豊か ○ 居酒屋がない ○ 町民の意見が通りやすい ○ 人情（人がいい！）	■ 道路整備と高齢者にやさしい町 ○ バリアフリーの道路 ○ 自動運転車（いなまるの活用） ○ スマホで呼べる車
C グループ	○ 児童館に魅力がない ○ 図書館に魅力がない ○ 緑が多く、静かな環境 ○ バラ公園のバラの色がたくさんあってきれいなところ ○ 個人の活動（畑、商売など）の減少 ○ イベントを開催できる場所が少ない ○ 通りすがりの人があいさつしてくれる ○ 北部と南部で情報が共有されず、知らないことが多い ○ 10代後半～20代に対する支援が不足している	■ 伊奈っ子がいいなと思う町「10代～20代への支援の不足を解決する」 ○ 多世代の交流、気軽に集える場所、町民活動*支援 ○ 北と南のよい所を共有できるような交通の充実、情報の流通 ○ 町内の会社へのインターンシップ ○ 事業コンテンツコンテスト（補助金） ○ 施設の魅力UP（内容、交通） 子どもへの原体験の価値見直し

南地区

実施日	令和5年7月29日(土)
場所	伊奈町ふれあい活動センター「ゆめくる」
対象	丸山区、下郷区、綾瀬東区、綾瀬南区、綾瀬北区、栄南区、栄中央区、栄北区、志久区、南本区、北本区、中央区、小貝戸区、大山区にお住まいの方
参加者	9名



グループ	伊奈町の強み・弱み	キーワードとアイデア
Aグループ	○さいたま・栗橋線に押しボタン式信号をつける ○居場所の活性化、利用 ○プールがない ○スポーツ宣言都市なので、(体育館などの) 場所を増やして欲しい ○図書館が小さい ○田んぼや、公園があって自然がたくさんあるところ ○ニューシャトルの運賃が高い ○丸山駅周辺、新幹線下の道路が大型車(ダンプ)通行により破損 ○通行規制して欲しい	誰もがつどえてつながりを持てるアットホームなまち 拠点となる場所 ○複合施設 ○多機能 ○ワンストップ ○不特定多数 ○だれもが ○朝市 ○道の駅的な… ○自由に集える、つながり、コミュニケーション、人と話せる
Bグループ	○道が狭い ○プールがない ○バラ公園がある ○スーパーが南部の方にはない(ウニクスに行くには、車が必要) ○バスの本数が少ない ○足(車・バス)がもう少しほしい ○栄地区に空き家が増加している ○住宅が多いが、産業は少ない ○南部地域のリニューアルがされていない	住みつけたいまち ①安全・便利な生活環境 ○主要道路を整備 ○生活道路を安全にする ②土地の有効活用 ○空き家、土地のリノベーション ○移住者向けのプラン ○人が増えればインフラが進む(交通・道路など)

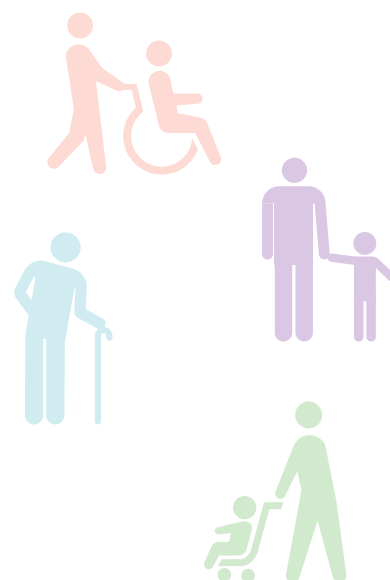
3. 踏まえるべき社会潮流と変化

① 人口減少と少子高齢化への対応

現在わが国では急速な人口減少と少子高齢化が進行しており、社会の持続可能性において危機的状況にあります。人口減少や少子高齢化の進行により、労働力や地域活動の担い手の不足、消費・経済規模の縮小、社会保障費の増大、税収の減少などが生じ、行政運営だけでなく、経済、生活、地域コミュニティなど、社会全体に様々な影響を及ぼすことが懸念されています。

こうしたなか、国では平成26年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少や少子高齢化対策に取り組んできました。

さらに、社会情勢が急激に変化していることを踏まえ、令和5年度にはこれまでの総合戦略からの抜本的な改訂となる「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が策定され、デジタルの力を活用し、地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化させることとされています。本町でも、子育て支援や移住定住の促進など、より実効性のある人口減少対策に取り組むとともに、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、デジタル技術を活用した総合戦略の策定が必要となります。



② 安全で安心な暮らしの実現

新型コロナウイルス感染症の拡大により日常生活・経済活動両面に大きな影響がもたらされたなかで、感染症予防と日常生活の両立に向けた生活スタイルの構築と定着が必要となっています。

また、地震や台風をはじめとした大規模な自然災害の発生、子どもや高齢者を狙った犯罪、交通事故など、様々な分野における危機意識も高まっていることから、本町においても、危機管理体制の充実、犯罪や事故のない安全な社会づくりが求められています。



③ 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

「持続可能な開発目標」（SDGs）とは、平成27年9月の国連サミットで採択された、17の国際目標、169のターゲットから構成された、令和12年までの長期的な開発のための指針です。

わが国においても、8つの優先課題と具体的施策が定められ、積極的に推進されています。その取組は国や都道府県だけでなく、企業や地方自治体もその推進の主体として関わっていくことが求められており、本町でも総合振興計画を通じて、SDGsの実現に向け施策を推進する必要があります。



4 情報通信技術の普及と新たな展開

情報通信技術の飛躍的な発達と、情報通信機器の普及・多様化により、人々の生活、経済活動、サービス、社会の仕組みなどが大きく変化しています。

AI*やIoT*、ビッグデータ*などを活用した行政運営の効率化やまちづくりの活性化、リモートワークの普及による働き方改革など、ライフスタイルの新しいステージである「Society 5.0」の推進が期待されています。本町においても、地域課題の解決や経済の活性化、安心・安全で便利なまちづくりに向けて、更なる情報通信技術の普及・活用が求められています。



5 ダイバーシティ*の推進

様々な価値観を持つ人々の人権や多様性を尊重し、すべての人が参画し、能力を発揮することができる社会づくりが求められています。

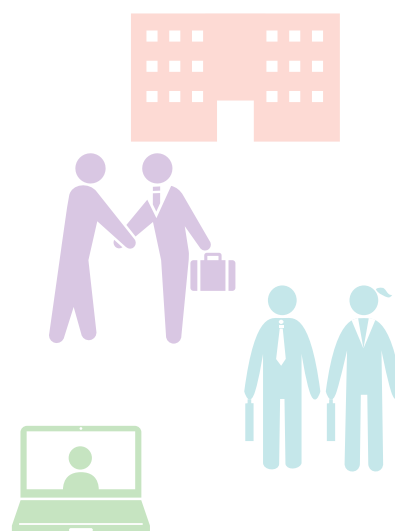
差別の解消や女性の活躍などに向けた法整備に加え、多様な人材を生かし、その能力が最大限に発揮できることで、暮らし・生きがい・地域を共に創っていくダイバーシティ社会の推進に向けた取組が進められているなか、本町においても、性別や年齢、国籍、障害の有無、性的指向を問わず、一人ひとりが尊重され、誰もが主体的に参画できるダイバーシティ社会を推進する必要があります。



6 経済情勢と働き方の変化

わが国の経済情勢は長期的に厳しい状況にあり、低成長率の傾向が続いています。近年ではコロナ禍を経て、地域経済や社会構造を取り巻く環境は緩やかに回復しているものの、引き続き厳しい状況となっており、産業基盤の整備や雇用機会の創出、本町の既存の資源を生かした新たな事業の創出等に取り組む必要があります。

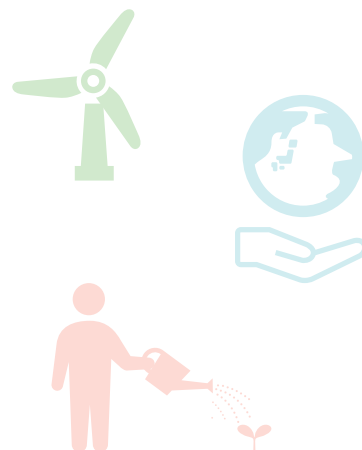
また、働き方改革の推進やライフスタイルの変容により、女性の社会進出やワーク・ライフ・バランス*の取れた働き方が浸透しており、本町においても、多様な働き方を実現するための啓発や環境づくりに取り組む必要があります。



7 地球環境問題への対応

化石燃料の大量消費や世界的な人口増加などを背景として、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が増加しています。地球温暖化問題は、生態系や食料、健康など、世界中のあらゆる場所に影響を及ぼす問題であり、今後の世界の持続的な発展を可能とするためにも、国際的な対応が必要となっています。本町においても、温室効果ガスの削減に向けた取組を推進し、カーボンニュートラルの実現を目指すことが必要となっています。

また、地球規模での生物多様性の危機が懸念されるなか、生物多様性保全の場として、里地里山の保全活用などが求められており、豊かな自然を誇る本町においても、森林や河川の保全は継続して取り組む必要があります。



8 持続可能な行財政運営の実現

人口の東京一極集中が進む一方で、地方の市町村では、人口減少による自治体の税収減と並行して、高齢化の進行による社会保障費用の増大、老朽化の進む公共建築物やインフラの整備・改修などが喫緊の課題として浮上しており、その継続的な運営をおびやかすような、困難な状況に直面しています。

地方自治体の持続可能性を確保するために、より効率的な行財政運営が求められているなか、本町でも、行財政改革や近隣自治体との連携などを進め、限られた資源を有効に活用する取組が必要となっています。



9 Well-Being*の推進

現代社会においては、従来の「物質的な豊かさ」の追求から、「心の豊かさ」を求める価値観が重要視されるようになっていきます。こうしたなか、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」を表す「Well-Being」の考え方に基づき、実現に向けたまちづくりが進められています。

本町においても、「物質的な豊かさ」だけではなく、「心の豊かさ」の実現により、一人ひとりがそれぞれの幸せを感じることができる、Well-Beingの向上のための取組が必要です。



4. まちの課題

1 人口減少・少子高齢化への対策

〔課題〕

- ライフスタイルの多様化による家族観の変化や非婚化・晩婚化等により、出生数の低下が全国的に課題となっており、本町の出生数も減少傾向となっています。
- 今後は後期高齢者の急増や高齢化率の上昇が見込まれており、医療・介護費の更なる増加や、高齢独居世帯の増加等が見込まれます。
- 人口の増減の状況をみると、平成29年までは自然増減・社会増減は共に増加で推移していたものの、平成30年以降は自然増減が減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本町の人口は令和12年をピークに減少に転じる見込みとなっています。



〔今後の方向性〕

- ➡ 出産から子育てまで、切れ目のない保育・教育サービスの支援や、子育てしやすい環境の整備・充実を図るとともに、就労先の確保や多様な働き方の支援等を行い、子育て世代をはじめすべての町民が安心して住み続けられるまちづくりを推進します。
- ➡ 更なる高齢化の進行を見据えた高齢者福祉対策や、地域医療提供体制の充実を図ります。
- ➡ 生産年齢人口の転入を増やすため、都心からのアクセスが良好であるメリットを生かしながら、魅力あるまちづくりやシティプロモーションに取り組みます。



2 安心・安全なまちづくり

〔 課題 〕

- 異常気象による風水害や、震度6クラス以上の大規模な地震が全国各地で発生していることから、災害への備えや災害発生時の対応について充実を図る必要があります。
- 本町の消防団員の充足率は低下しており、団体ヒアリング等の意見では、若い人の加入が少なく、高齢化が進行していることが伺えます。
- 町内では自主防災組織*や自主防犯組織が活動していますが、会員の高齢化が進行しており、活動に支障が出ているケースもみられます。
- 町内の安心安全ステーションを中心としたパトロール体制や、各自主防犯組織を中心とした防犯体制が整備されていますが、地域コミュニティにおける防犯に対する連携意識が希薄になりつつあることや、活動を担うボランティアの高齢化が問題となっています。
- 町民アンケート結果やワークショップからの意見をみると、道路の整備に関する意見や、街灯が少なく不安であるといった意見が多く挙げられています。
- 高齢化の進行に伴い、高齢ドライバーの増加による交通事故の増加が懸念されます。
- 近年ではインターネット通販等が普及したことや、キャッシュレス決済サービスの充実など、社会の新たな潮流に便乗した詐欺的商法が生まれていることや、主に高齢者をターゲットにした特殊詐欺等の被害が全国的に増加しており、消費生活に係る相談内容も複雑化・多様化しています。



〔 今後の方向性 〕

- ➡ 令和5年度に上尾市との消防広域化がスタートし、消防・救急体制がより一層強化されました。今後も上尾市と連携しながら、町民の生命を守る消防・救急体制の強化に努めます。
- ➡ 災害はいつでもどこで発生するかわからないことから、地域防災計画や国土強靱化地域計画に基づいた防災・減災対策の推進、ハザードマップ*の周知、防災行政無線の普及・整備等に取り組みます。
- ➡ 消防団や自主防災組織、自主防犯組織の担い手を確保するため、活動の周知や啓発、SNS等を使った様々な勧誘方法を検討します。
- ➡ 犯罪や交通事故を未然に防ぐために、危険箇所の把握や道路照明灯・防犯灯、道路反射鏡等の整備を推進します。加えて、交通安全の意識向上のための啓発に取り組みます。
- ➡ 消費生活に関するトラブルを未然に防止するため、消費生活相談の充実や、消費者トラブル対策に役立つ情報の提供を行います。

3 健康・医療・福祉の充実

[課題]

- 町民アンケート結果をみると、今後重点的に取り組むべきこととして、「病院や医院など医療施設の整備」や「高齢者福祉対策の充実」が上位となっています。ライフスタイルの変化等により、夜間診療・休祝日診療や小児初期及び二次救急医療*提供体制の拡充へのニーズが高まっています。
- 特定健診の受診率が減少傾向にあり、また、がん検診の受診率は県内でも低い水準となっています。
- 後期高齢者の増加により、要介護認定者数の急激な増加も見込まれることから、高齢者施策への需要や認知症患者の増加、医療費の増加が懸念されます。
- 令和2年度より上尾市・桶川市と共同で基幹相談支援センターを設置するなど、相談支援体制の強化を図ったものの、相談支援事業所の人手不足により、相談件数の増加に対応できないケースがみられます。障害福祉サービスの利用について、利用者本人の希望通りにならないケースや、障がい者の就労や社会参加についても、事業所の不足等により十分に実施できていないケースがみられます。

[今後の方向性]

- ➡ 特定健診やがん検診の受診率の向上に向けた情報の発信や、受診しやすい環境を整備します。
- ➡ 多様化する地域医療へのニーズに対応するために、今後も地域医療提供体制の維持・拡充に努めます。
- ➡ 人生100年時代*に向けて、いつまでも健康で長生きできるよう、健康づくりへの意識啓発や介護予防、認知症施策の推進に取り組みます。
- ➡ サロン活動の充実やシルバー人材センター等と連携を図るなど、高齢者の社会参加の促進による生きがいづくりを推進します。
- ➡ 高齢者が住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステム*の深化・推進を図り、医療と介護の連携強化や、重度化防止の取組の推進によるQOL*の維持とあわせて、ACP*(人生会議)の普及・啓発を行います。
- ➡ 障がい者や難病患者等が安心して、自分らしく暮らし続けることができる地域共生社会の実現に向け、関係機関の連携体制の充実、相談支援体制の強化、適切なサービス提供体制の充実、就労や社会参加の促進に努めます。

4 子育て支援や教育の充実

〔 課題 〕

- 核家族化の進行や家族形態の多様化により、保育や子育て支援のニーズは複雑化・多様化しています。令和3年度以降毎年1～2人発生していた保育所の待機児童数は、令和6年4月1日現在発生していませんが、引き続き待機児童を発生させない取組が求められています。
- 町民アンケート結果をみると、伊奈町への定住・移住の促進を図る上で効果的だと思う取組として「子育て支援の充実」が最も多くなっています。
- グローバル化により、外国語教育の重要性が高まっているほか、ICTを活用した教育環境の整備が急速に求められています。
- 近年、不登校児童・生徒が増加しており、家庭環境も複雑となっていることから、より丁寧な対応が求められます。
- 本町の文化や伝統、歴史を知ってもらうための機会や場所が不足しているほか、後継者の問題もみられます。
- コロナ禍以降、スポーツ教室や各種イベント等が制限され、運動やスポーツをする機会が減少しました。ワークショップからの意見では、スポーツ施設の老朽化に関する意見や、もっと気軽に使えるようになってほしいといった意見がありました。



〔 今後の方向性 〕

- ➡ 安心して子どもを出産し、育てられるような環境整備や、切れ目のない子育て支援体制を構築し、子育て世代に選ばれるまちづくりを推進します。
- ➡ 保育現場におけるICTシステムの活用を推進し、保護者との情報共有、子育て家庭への情報発信、職員の業務負担の軽減を図ります。
- ➡ 質の高い学校教育を推進するため、ICTの効果的な活用や、学習者用デジタル教科書の実証実験など、国の動向を注視しながら取り組むほか、グローバル化に伴う外国語教育の充実を図ります。
- ➡ 本町の文化や伝統、歴史を後世に伝えるための施策の充実を図ります。
- ➡ 生涯にわたりスポーツを楽しむ環境の整備に向けて、スポーツ教室や各種イベント等の充実や、誰もが安心して利用できるスポーツ施設の整備を行います。

5 緑あふれる、にぎわいのあるまちづくり

〔 課題 〕

- 豊かな自然や田園風景、ニューシャトル、バラ園やイベントなどの地域資源を有していますが、ワークショップからの意見では、SNS等を活用したPRにより力を入れるべきとの意見がありました。
- 緑豊かな住環境がある一方、近年では人口の増加による宅地開発や農地の減少等により、緑地等の自然環境の減少が見られます。地球温暖化対策は世界的な課題となっていますが、本町における温室効果ガスの排出量は依然として多い状況です。
- 町民アンケート結果やワークショップからの結果をみると、町内循環バス「いなまる」等、町内の移動手段に対する意見があったほか、町外へ移りたいと答えた方の理由として、「交通が不便である」「日常生活（買い物等）が不便である」が多くなっています。
- 企業誘致については、令和3年度に1社の誘致がありましたが、企業の希望に合う用地の確保等が課題となっており、誘致が計画通りに進んでいない現状となっています。団体ヒアリングでは、町内の商工業の課題として、後継者の問題や労働力不足の問題が挙げられています。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、行動制限や経済活動の停滞等、様々な影響がみられ、本町においても観光分野におけるイベント入込客数の減少がみられました。
- 団体ヒアリングでは、周遊型観光だけでなく、滞在型観光に力を入れるべきとの意見がありました。



〔 今後の方向性 〕

- ➡ 新たな関係人口や交流人口を拡大させるために、バラや伊奈備前守忠次を軸とした観光振興や、町内の資源を生かした特産品の開発やPRを推進します。
- ➡ 環境保全の大切さを周知するとともに、3R*等の推進によるごみの減量や、再生可能エネルギーの普及を推進します。
- ➡ 町内循環バス「いなまる」のルートや運行ダイヤの見直しを検討し、更なる利便性の向上を図ります。
- ➡ 町内の雇用促進や地域活性化に向け、産業基盤の整備や町内消費を促進するとともに、企業誘致や新たに町内で起業する方の支援を行います。
- ➡ 観光協会と連携したまつりやイベント等を実施し、町の魅力発信に努めるとともに、更なる魅力発信につなげるため、既存の事業等を生かした滞在型観光の創出や、体験交流型観光や滞在型観光等へのバージョンアップについて検討を行います。

6 持続可能な町政運営

〔 課題 〕

- ライフスタイルや地域コミュニティに対する価値観が多様化しており、自治意識や連帯意識が希薄化している傾向にあります。
- 町内の外国人人口が増加していることから、ホームページや広報紙等の情報発信における配慮についての課題があります。
- 効率性の高い行政運営に向けて、業務の電子化や電子決裁の導入を推進するとともに、ユニバーサルレイアウト・デザインの実現に向けて、文書の電子化やペーパーレス化をより一層推進する必要があります。
- 性別による固定的な役割分担意識が、職場や家庭等で依然として残っています。

〔 今後の方向性 〕

- ➡ 地域住民同士が支え合い、協働のまちづくりを推進するため、住民参加への意識醸成や、協働しやすい環境づくりを行います。
- ➡ コロナ禍を契機として、町内におけるDX化の推進をより一層推進します。
- ➡ 国においても「デジタル田園都市国家構想」を進めており、庁内でもDX推進・新庁舎整備室を新設し、町内における各種デジタル技術の導入に向けて取り組んでいることから、行政サービスのデジタル化等を推進します。
- ➡ ジェンダー*・ギャップやアンコンシャス・バイアス(性別による無意識の思い込み)等の解消に向けて、引き続き啓発を行います。

